

マイコプラズマ肺炎について

マイコプラズマ肺炎は『肺炎マイコプラズマ』という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。1年を通じてみられ、秋冬に増加する傾向があります。小児や若者の肺炎の原因としては比較的多いものの一つです。例年患者として報告されるもののうち約80%は14歳以下ですが、成人の報告もみられます。今年には感染者が急増していて、大流行した2016年以来の水準となっています。

感染経路は風邪やインフルエンザと同じ飛沫感染、あるいは接触感染です。感染者の咳やくしゃみなどのしぶきを吸い込んだり、病原体が付着した手で口や鼻に触れたりすることによって感染します。感染を予防するためにはしっかり手洗いをするのが大切です。

マイコプラズマ肺炎は感染するまでの潜伏期間が2～3週間と長いことが特徴です。また、発症すると発熱や頭痛、倦怠感など風邪によく似た初期症状が出現し、3～

5日経過してから咳が出始めます。咳は徐々に強くなり乾いた咳から湿った咳に変わり、熱が下がったあとも3～4週間にわたり続くこともあります。

マイコプラズマに感染しても重症になるケースは少なく軽い気管支炎で済むことがほとんどですが、症状が軽いために気づかずに外出する人が多いため、『歩く肺炎』と呼ばれます。しかし、大人と子供では症状の違いがあり、大人の方が症状がひどくなるケースもあります。一部の人には重症の肺炎に進行する可能性もあり、入院が必要になる場合もあるため、いつもの風邪と違うと感じたときは早めに医療機関を受診し、医師の診察を受けましょう。

